キュレーターズ・チョイス07
対話する美術館

専門スタッフが選ぶ
こだわりの作品から
知られざる傑作、
珍品を一挙公開！

ラスロ・モホイ＝ナジ《手》1926年

ミュージアム・チョイス

平成18（2006）年度に収蔵された作品である。カーシュが描き出す肖像には、写された人物の「運命」が刻み込まれている。

ユーサフ・カーシュ
《アルベルト・ジャコメッティ》1965年

ディレクターズ・チョイス

福原義春
モホイ＝ナジは、写真で絵画に迫ろうとした。だが、その試みは却って光が演ずるドラマを輝かせることになったのだ。

ラスロ・モホイ＝ナジ
《手》1926年

ライブラリアンズ・チョイス

小林玉枝
2001年にJCIIで開催された展覧会カタログです。日本の代表的な40タイトルの写真雑誌を表紙の写真と書誌解題を付けて紹介しています。

『写真雑誌の軌跡：JCIIライブラリー10周年記念展』
2001年　JCIIライブラリー

古川繁子
一部の方には、「懐かしい」という気持ちを喚起させるのか、展覧会終了後にもご覧になりたいという問い合わせが多くありました。

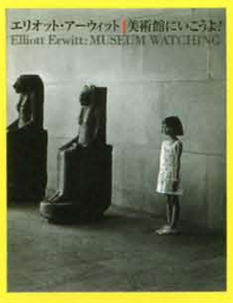
日本写真家協会編
『日本の子ども60年』2005年　新潮社

来代紀子
この図書館も、あの図書館も訪れてみたい、と思わせる写真集。あなたはどの図書館に行ってみたいですか。

Candida Hofer
『Libraries』2005年　Thames & Hudson

柴崎夏子
プロの写真家だが、趣味もアマチュア写真家でいる事だというアーウィットの美術館巡り。思わず頬が緩みます。

エリオット・アーウィット
『美術館にいこうよ！』1998年　クレオ



■ **学芸員による展示解説**
会期中の毎週金曜日午後3時より展示解説を行います。

2007 **8/11**［土］―**10/8**［月・祝］ 東京都写真美術館　地下1階映像展示室・4階図書室

●主催＝東京都　東京都写真美術館　●観覧料＝一般500（400）円／学生400（320）円／中高・65歳以上250（200）円（　）内は20名以上の団体料金。小学生以下、お体に障害をお持ちの方とその介護者は無料。毎月第3水曜日は65歳以上無料。●開館時間＝10：00→18：00（木・金は10：00→20：00、入館は閉館の30分前まで）●休館日＝毎週月曜日（休館日が祝日の場合はその翌日）※ただし10月1日（月）都民の日は臨時開館、入場無料。翌10月2日（火）は通常開館

東京都写真美術館
恵比寿ガーデンプレイス内　URL: http://www.syabi.com
東京都目黒区三田1-13-3　〒153-0062　tel.03-3280-0099

JR恵比寿駅東口改札より徒歩約7分。東京メトロ恵比寿駅より徒歩約10分
当館には専用の駐車場がございません。お車でのご利用はご遠慮ください。
作品保存の環境を整えるため、生花等は受け付けておりません。あらかじめご了承ください。

東京都写真美術館　恵比寿ガーデンプレイス内
URL: http://www.syabi.com

キュレーターズ・チョイス07
対話する美術館

東京都写真美術館では、展覧会の実施、写真映像作品・資料の収集、教育普及事業、図書室の運営、写真の保存についての科学的研究に、学芸員、専門調査員、図書館司書、保存科学専門員が従事しています。

このような専門スタッフが、日頃の研究を活かして事業を企画・運営するなかで培った個性的な視点にもとづいて収蔵作品をセレクトした「キュレーターズ・チョイス07」は、テーマを「対話する美術館」と題し、専門スタッフならではの視点で、作家や作品との対話、そしてなによりもご来館いただくお客さまとの対話を実践し、写真美術館の魅力を広く示してゆきます。

当館に収蔵されている2万3千点にのぼる作品・資料と、約6万点に及ぶ写真・映像に関する図書の中から専門スタッフがセレクトした名品、知られざる傑作からあっと驚くような珍品まで、通常の企画展ではなかなか観ることのできない収蔵作品や資料にご期待ください。

キュレーターズ・チョイス

笠原美智子
ナン・ゴールディンの衝撃的デビュー作『性的依存のバラード』からの1点。性を巡る日常を日記風に綴り、女性のセクシュアリティ表現の金字塔となった。

ナン・ゴールディン
《ナンとブライアン、ベッドで、ニューヨーク》
1983年　銀色素漂白方式印画

岡部友子
前回のテーマは「1930年代の都市」。そして今回は森山大道の都市。時代を経て、都市と人と写真との対話はどう深化したのだろうか。

森山大道
《New York City》1971年撮影

渡邉和子
人間が、そんなに偉いのか？

宮崎　学
シリーズ〈死〉より　1993年　銀色素漂白方式印画

河村三枝子
新聞社、郵便、瓦斯灯とともに、写真は「文明開化の7つ道具」にあげられた。そして西洋文明の象徴「写真」は、より多くの「日本」を世界に語り始めた。

撮影者不詳
『THE FAR EAST』第3巻第23号　1873年より
《油売り》鶏卵紙

中村浩美
アメリカを、女性であることを、そして何よりも〈今〉を生きていることを全身全霊で謳歌しているかのようで、その潔さが気持ちいい。こうして〈今〉を笑ってやり過ごしていけたらどんなに幸せだろう、といつも励まされるイメージだ。

ゲリー・ウィノグランド
ポートフォリオ〈女たちは美しい〉より　1981年

鈴木佳子
群衆のなかに、ひとり佇む女性。雑踏のざわめきが沈黙に変わる時、1945年の大爆音の直後の無音のイメージが、頭のなかでフラッシュバックする。

石黒健治
シリーズ〈広島　HIROSHIMA NOW〉より
1965-66年

石田哲朗
川内倫子とジョナス・メカス。うたたねの時間、凍りついたフィルムのコマたち。イメージは静かに語りかけてくる。生きることは、無数のまたたきの連続だということ。

川内倫子
《Untitled/うたたね124》2001年
発色現像方式印画

三井圭司
コロディオン湿板方式で数秒の露光時間を要した当時、酒席を自然な写真に残そうとするには、綿密な打ち合わせを必要としたことだろう。

横山松三郎
題不詳（松平忠礼を囲む五人の男）1865-68年
アンブロタイプ

石田留美子
猛烈な勢いで発展をとげる現代中国。この中国の圧倒的な生命力とパワーは今に始まったことではなかった。彼らのリアルな生活や臭いを撮ってきた写真家の視線から、その謎に迫る。

レオ・ルビンファイン
《真夏の午後　中国・重慶》1986年
ダイ・トランスファー・プリント

神保京子
最も初期の観光写真と言われる手彩色の美しいダゲレオタイプ。風景と対峙することによって生み出される力強く広大な自然との対話は、人々の心を癒し、蘇らせる。

ブラット・D. パビット
《展望台からのナイアガラ滝の眺め》1855年
ダゲレオタイプに手彩色

岡村恵子
美しさはいつも理不尽で気紛れ。写真を巧拙で見たことはあまりなく、もっぱらその作用（パフォーマンス）に興味がある。――キューブリックと同じくらいリアル。

NASA（アメリカ航空宇宙局）
ポートフォリオ〈宇宙への旅――25年の歴史〉1991年より《ミッション：アポロ・サターン11号　1969年7月16日 - 24日》ダイ・トランスファー・プリント

丹羽晴美
写真は過去、現在、未来を内包する。被写体の歴史と現在、作家のまなざしの軌跡、作品を見た者の記憶と未来。写真が残すものを過去の歴史として片づけるか、未来への種として生かすかは、見る者に拠っている。

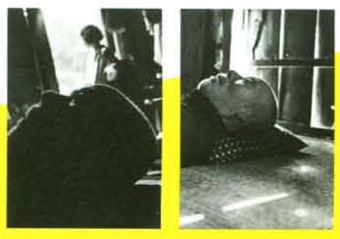
セバスチャン・サルガド
シリーズ〈サヘル〉より《かつてファキピンヌ湖のあった土地が砂漠に変わっている、マリ》
1985年

藤村里美
街角で話し込む二人の女性。「瞬間を切り取る」というのも写真の特質の一つである。私たちがスナップショットと呼ぶ写真に心惹かれるのは、どこかで自分が経験したことのある場面と重なるからだろうか。

桑原甲子雄
シリーズ〈東京長日〉より　題不詳　1971年～1980年

金子隆一
東松は、作品のタイトルを変えたり、焼き付けの調子を変えたり、別テイクに差し替えたりする。表現を時代と拮抗させようとする作家的態度の表れであり、「写真」の本質も表している。

東松照明
左●シリーズ〈風化する時、長崎はいま〉より《末次助作氏》1961年撮影 1980年プリント
右●シリーズ〈長崎［11:02］1945年8月9日〉より《末次助作さん（浦上地区）》1961年撮影 1995年プリント



山口孝子
この作品はオートクロームが用いられている。オートクロームは、オレンジ、緑、紫に着色されたジャガイモの澱粉粒子を色素として使用し、1907年に世界初の実用的カラー感光材料として発売された。身近な材料を用いた発想には驚かされる。

鎌田彌壽治
題不詳（大礼服の肖像）1907年
オートクローム

掲載図版はすべて東京都写真美術館蔵。技法の表記のない作品は全てゼラチン・シルバー・プリントです。